めぐみの森だより　2023年4月号

社会福祉法人　雲柱社　めぐみの森保育園　　☎ 03-3480-4448

進級・入園おめでとうございます

3 月の暖かい穏やかな天気の中、23 名の子どもたちの卒園式を行うことができました。次の週は気温も低く雨も降っていたため、1 週前でよかったとホッと肩をなでおろしました。昨年度の行事は天気に恵まれることも多く、私は「晴れ女」かも、と今年も行事等で天気に恵まれることを願いつつ自己満足に浸っております。

今年は 4 月 1 日が土曜日という新年度の始まりですが、保育園としては 31 日の後に土日があり、気持ちの整理も少しできありがたいスタートとなりました。

新入園のみなさま、めぐみの森保育園へようこそいらっしゃいました。いくつかのきっかけが重なり、こうしてめぐみの森に入園されたことをとても嬉しく思います。進級を迎えたみなさま、今年は行事の行い方が少しずつコロナ前のように行えるといいなと思っております。

『地域と共に生きる』

関東大震災から今年でちょうど 100 年が経ちます。私がめぐみの森以前に働いていた光の園保育学校は関東大震災の際に、創設者の賀川豊彦が神戸より救援活動を行い、大人たちが瓦礫の片付けや、救済活動に忙しく働く中、子どもたちを集め託児所を開設したことが法人の起源と言われています。保育園の名前も、光の園保育園ではなく、保育学校と名付けられ由来は、子どもたちだけではなく、地域の人々が集まり学び合う場として地域に根差した場所として始まったと聞いています。

また、昨年度の終わり、法人保育ブロック全体会が行われ、その中で御殿場にある高根学園保育所の園長より、阪神淡路大震災のことを聞く機会がありました。高根学園の園長先生は、神戸 YMCA で長いこと勤務をされており、ご自分も震災に合いながらも、復興支援にあたられた当時の話をしていただきました。お話の中で、地域と繋がりのある施設はあっという間に復興したが、地域との繋がりが薄い施設はなかなか復興することができなかったとお話しされていました。

めぐみの森は今年で 8 年目を迎えます。100 年前より開園している光の園とは違い、地域との繋がりはこれからです。保育園は在園している子どもたちの成長を願い、保育を行っていくことが役割と思っていますが、地域には家庭で過ごしている子どもたち、子育てに悩みながらも相談できる場所がなく困っている保護者の方、そういった地域の親子の少しでも力になれたらと、今年は「めぐみの広場(保育所体験)」をスタートします。地域にお住いの 0、1 歳児の親子を保育園に招き、保育園の子どもたちと一緒に過ごす時間を持ったり、子育ての悩みを聞いたり、短い時間ですがこの地域にこんな保育園があると知っていただく機会にもしていきたいと思います。そして、これからもっともっと地域に根差した保育園となれるよう歩んでいきたいと思います。

記：園長　藤本　紘子

≪今月のおすすめ紹介≫

『ナルゲンボトル』

アウトドア用品売り場には必ずと言っていいほど置いてある品物。もともとは研究室用に開発されたプラスチック製品のブランドですが、今ではペットボトルを使い捨てる等の自然破壊問題からも繰り返し使える容器として注目されています。私も水分補給として毎日持ち歩いています。繰り返し使えることが何より便利、食品をストックする容器としても活用できます！！！